

インフルエンザ

高齢者の方へ

予防接種のお知らせ

市では、日ごろより乳幼児から高齢者まで、広く予防接種の有効性などをお知らせすることにより、感染症などのまん延予防に努めています。さらに平成13年11月7日に改正された予防接種法に基づき、高齢者へのインフルエンザ予防接種を整備し、制度の充実を図ってきました。

高齢者のインフルエンザ予防接種は、身近な医療機関で直接受けられます。事前に予防接種の有効性や副反応などをご理解のうえ、接種を受けてください。

実施内容

- 実施期間は、平成18年10月20日(金)から19年1月31日(水)までです。
- 対象者は、接種当日所沢市の住民基本台帳に記載されている次の方です（外国人登録をされている方も含む）。

- ①65歳以上の方
 - ②60歳以上65歳未満の方で、心臓、じん臓、呼吸器の機能に極度の障害のある方、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能の障害のある方
- なお、60歳以上65歳未満の方で接種を受ける場合には、医師の診断書や身体障害者手帳など、接種対象者であることを証明できる書類が必要です。詳しくは、保健センターへお問い合わせください。

- 接種は、市内協力医療機関で行います。裏面の実施医療機関一覧表をご参照ください。



予防接種の流れ

- ① 一覧表から希望の医療機関を選ぶ
- ② 医療機関に予約をする
- ③ 予約当日、直接医療機関に行く
- ④ 予診票を記入する
- ⑤ 医師の問診を受ける
- ⑥ 接種の同意、署名をする
- ⑦ 予防接種を受ける
- ⑧ 医療機関窓口で自己負担金を支払う

インフルエンザの予防

予防の基本は、流行前に予防接種を受けることです。これは世界的にも認められている最も有効な予防法です。

インフルエンザは空気中に拡散されたウイルスによって感染しますから、感染予防のためには、人混みは避けましょう。また、日ごろから十分な栄養や休息をとることも大事です。インフルエンザ感染の広がりには空気の乾燥が関連しています。室内では加湿器などを使って加湿しましょう。

外出時のマスクや帰宅時のうがい、手洗いは、普通のかぜの予防とあわせておすすめします。

- 接種を希望する方は、直接医療機関で受けられます。予診票は医療機関に用意してあります。
- 医療機関が決まったら、必ず医療機関に予約してください。医療機関では、予防接種の曜日、時間等が決められています。事前に確認し、予約のうえ、予防接種を受けましょう。
- 接種回数は、1人1回です。この公費負担制度の利用は、1人につき年度内1回を限度とします。通常、大人は1回の接種で効果があります。2回接種を希望の方は、2回目は全額自己負担による任意接種になります。
- 自己負担金は1,000円です。自己負担金は、接種を受けた医療機関窓口でお支払いください。なお、この予防接種は公費負担制度によるものです。
- 対象者の中で生活保護受給者は、市が全額負担します。保健センターまでご連絡ください。

接種前の注意

- インフルエンザ予防接種の必要性や副反応をよく理解しましょう。この「インフルエンザ予防接種のお知らせ」に掲載の説明文をよく読んでから接種を受けてください。分からないことは医師などに質問し、理解できない場合には、接種を受けないでください。
- 体調の悪い日の予防接種は避けましょう。予約当日、少しでも体調が悪いと感じたら、必ず接種を延期してください。思わぬ副反応なども考えられます。
- 予診票を記入してください。予診票は、接種する医師にとって大切な情報になります。基本的には、接種を受けるご本人が責任をもって記入してください。
- 接種直前の体温を測ってください。体温が37.5度以上ある場合は、接種を受けられません。
- 本人の意思確認ができない場合は、接種を受けられません。インフルエンザの予防接種は、接種を受ける法律上の義務はなく、本人が接種を希望する場合のみ受けられます。接種同意の署名ができない、正確な意思確認ができないなどの場合は、予防接種法に基づく接種は受けられません。

インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。インフルエンザにかかった人が、せきやくしゃみなどをすることにより、ウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。

インフルエンザの流行は、通常、初冬から春先にみられます。

典型的なインフルエンザの症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、せき、鼻水などもみられます。普通のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴です。気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのもインフルエンザの特徴です。

さらに、普通のかぜが流行しても死亡する人はあまり増えませんが、インフルエンザが流行すると、特に65歳以上の高齢者や慢性疾患患者で死亡率がふだんより高くなるという点でも普通のかぜとは異なります。